

10月の県内景況は、前月に比べ「売上高」などの5項目が改善するものの、依然として低い数値にあり、業種間のばらつきが顕著になっている。

情報連絡員による平成28年10月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は12.7%（前月比+4.1）となっており、「横這い」は30.9%（同-7.0）、「低調」とするところが56.3%（同+2.8）、業界全体の「景況感DI」は-43.6%（同+1.2）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「収益状況」「設備操業度」「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造業が「快晴」。卸売業、サービス業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、10.9%（前月比-11.5）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答6件）（製造業2、非製造業4）。さらに、変わらないが、54.5%（前月比-0.7）と減少しております。一方、やや悪化、悪化の見込みは、34.6%（前月比+12.2）と増加しております。

平成28年10月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率91.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比										
食料品製造	33.33	-50.00	0.00	0.00	16.67	-66.67	0.00	-16.67	-16.67	-16.67	0.00	-66.67
繊維製品製造	0.00	-66.67	-50.00	0.00	-50.00	-33.33	-50.00	-33.33	0.00	-33.33	-50.00	33.33
木材製品製造	50.00	0.00	25.00	0.00	25.00	0.00	0.00	0.00	25.00	33.33	0.00	-33.33
鉄工機械製造	-20.00	-40.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-40.00
その他の製造	14.29	-71.43	0.00	28.57	0.00	-42.86	-14.29	-14.29	-14.29	0.00	-14.29	-14.29
卸売業	50.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	0.00	0.00
小売業	62.50	-37.50	37.50	12.50	-12.50	-62.50	-25.00	-50.00	-12.50	-37.50	-50.00	-75.00
商店街	60.00	0.00	20.00	-20.00	20.00	-20.00	0.00	-40.00	0.00	0.00	0.00	-40.00
サービス業	33.33	0.00	16.67	16.67	33.33	0.00	0.00	-16.67	0.00	0.00	0.00	0.00
建設業	20.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	0.00	-20.00
運輸業	-66.67	-66.67	0.00	0.00	-66.67	-66.67	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33

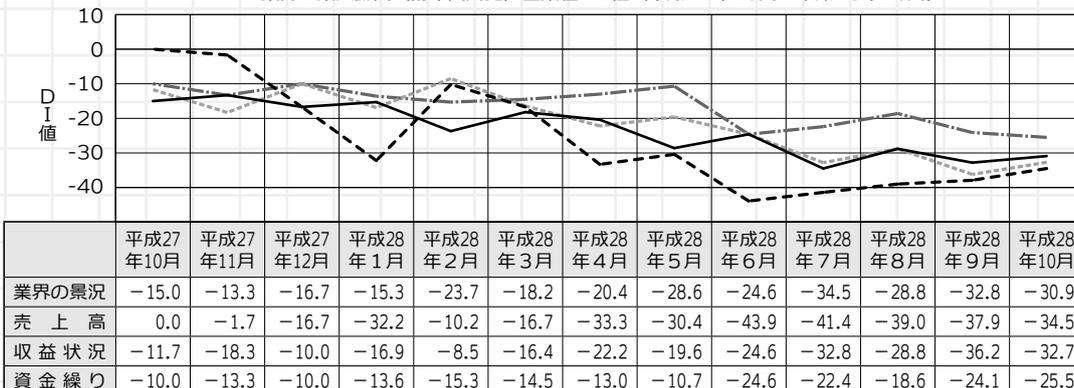
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- 曇り -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年10月～平成28年10月）



食料品製造業

<漬物>

生野菜が高騰しているため、売れ行きはまあまあである。しかし、使用原料が高く、収益面が厳しい状況にある。

<味噌醤油>

味噌、醤油の出荷量が相変わらず停滞。また、味噌の原料米については、不足の上、価格の著しい高騰など厳しい状況になっている。28年産も不足になるとの情報。東日本大震災や原発事故から5年7ヶ月が経過しても、風評により味噌の原料米も使用量が減少している。

<菓子>

老朽化に伴う冷蔵庫の入れ替え作業も終了し、設備費の捻出に頭を痛めている。今月から本格的な製餡方法の見直しや配送方法の効率化に組合員の理解を得ながら着手する。

<乾麺>

10月は晴れの日が続き、気温も高く、野菜の値上がりも影響し、鍋物・乾麺・茹麺・即席麺の出荷が悪い。10月下旬より天候も寒くなり始めたので、消費が回復することを期待したい。

<酒造>

売上は吟醸酒以外で全て前年割れとなり、厳しい状況となった。毎月状況が上下して、全体像がつかめない。ただ、全国的に売上げは落ちている。これから需要期を迎えるので、PRを含めイベントに参加していきたい。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。消費についても停滞気味は変わらず、売上も減少した。今後も、原料価格の高騰等収益に影響が出てくる見通しで、難しい状況が続いている。雇用においてもまだ改善が見られず厳しい状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の受注納品が一段落したところである。春夏物の9月展が終わり、通常なら受注が入る時期であるが動きが鈍いので心配である。

木材・木製品製造業

<製材業>

素材(丸太)の出材は天候が安定し、一般材が増加してきている一方、製材品は復興住宅向けの需要がひと段落したことから、荷動きは悪くないものの需要期としては今ひとつ盛り上がり欠ける。

<外材輸入>

先月に引き続き、プレカットを中心に荷動きは好調であるが、製品の販売価格は横ばいの状況が続いている。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

大手紙器メーカーとの競争の激化等、厳しい経営環境の中において、どこと付き合っていけば生き残れるのか、知恵を絞り出し頑張っていきたい。

印刷業

<印刷>

円高の進行により、用紙等の材料費は低下傾向にある。10月は、福島で初めて全日本印刷文化典ふくしま大会の全国大会を開催して、組合員の連携、結束が図られた月であった。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- | | | | |
|---|---------|-------|-------|
| 1 | 当月売上数量 | 前月比 | ±0% |
| 2 | " | 昨年同月比 | 約30%減 |
| 3 | 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約27%減 |
| 4 | 原因・現状 | | |

昨年の10月は住宅除染工事に出荷が多かったが、今年は公共工事及び民間の土木工事が主となり減少した。

<生コン>

平成28年10月の組合員生コン出荷数量は、174,670m³と対前年同月比18.5%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比19.3%減、官公需が27.5%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 19.3%減

対前年同月比増加地区 なし

対前年同月比減少地区

<県北地区> 15.6%減 JAみちのく安達燃料新築工事、工場建築工事等

<県中地区> 28.8%減 新福島郵便処理施設、マンション新築工事等

<白河地区> 36.2%減 工場倉庫増築工事等

<いわき地区> 22.9%減 製紙工場、小名浜SS(セメント基地)建設工事等

<相双地区> 1.9%減 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

<会津地区> 12.8%減 マンション、老人福祉施設建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 27.5%減

対前年同月比増加地区

<白河地区> 1.0%増 千五沢ダム改築工事、ひらた清風中学校舎建設、復興公営住宅工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 39.1%減 災害公営住宅、福島大学環境放射能研究所建築工事等

<県中地区> 22.7%減 須賀川市役所、ふくしま医療機器開発支援センター整備工事等

<いわき地区> 31.6%減 港湾災害復旧、市立総合いわき病院新築工事等

<相双地区> 28.4%減 減容化施設、海岸復旧工事等

<会津地区> 4.7%減 会津准看護高等専修学校新築工事、道路橋梁改良工事、災害復旧工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工工業>

鉄骨関係の県内受注は先細りの気がする。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で2倍以上の大幅な増となるも、前年同月比では35%の減となっている。前年累計比においても33%減と、落ち込みの状態が続いている。現在の引き合い状態から見ても、来月も厳しい状況が続くそうである。

<漆器>

消費税のアップ以来、売上は低迷を続けている。観光客の動きはあるが、消費節約の傾向が強くと、サイフのひもは固い。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

文具・事務機関連は、前年同月比で売上が落ち込ん

だ。稼働日数が前年より少なかったのも要因の一つ。復興需要については、同業種もプラス要因が続いていたが、宮城、岩手については下り坂。福島については、まだ需要が続いている。特に今後は、帰還困難地域等の浜通の需要に期待している。ネット通販等による影響は今後も続きそう。石油製品については、OPECの減産合意によって原油価格が上昇。ガソリン等の燃料の消費量は、エコカーの普及によって3~4%減っている。人手不足については、売り手市場が続いている。内定を出したにもかかわらず、断られるケースがしばしば見受けられる。

(県北地区)

米穀の販売単価は昨年より上がっているが、取扱数量が減ったため売上高は増えない。

<再生資源>

古紙の市中回収は減少が続いているが、アジア向け輸出市況の上昇傾向で、国内市況にも反映される事を期待している。鉄スクラップ市況は堅調様子見ムードで推移している。こちらも輸出市況の強基調を受け国内においても上向く期待感が大きい。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

近隣各地で、集客イベントを開催。来店動機付けの対策が更に必要と感じる。天候が悪い方が来店客アップ。お米の収穫時期は、売上・来店客数の激減が恒例。それでも本年度来店客数が若干伸びた。次月、農業者の暖かい懐に期待する。

<石油>

OPECの減産合意の発表により原油価格が上昇、更に為替の円安が重なり、元売各社で大幅に仕切価格の値上げを実施した。これにより、10月中旬以降小売価格が上昇しており、今後しばらくは上昇傾向となる見込み。

<水産物>

祭礼等で売上は増えたものの、仕入値が高く利益確保は依然として厳しい状況が続いている。

<青果>

前月からの状況は変わらないが、後半から取扱いが始まった会津のみしらず柿は、心配された春先の冷害の影響で入荷数は激減し単価は高騰している。

野菜においても、単価は物によっては前年の約2倍と高騰するが、入荷数の減少で取扱量の増加には繋がらなかった。今月の柿は予想以上の高値で推移しているので今後の消費者離れが心配だ。来月においても、会津のみしらず柿の取扱いが継続するが、少しでも取扱いが増加する事を期待したい。

<家電>

業界の景況は全体的に悪化。物の動きが悪い。合展、個展等、全体的に売上げが悪い。

商店街

<福島市>

9月と比較すると、全ての指標において良好である。10月に入り県外からのお客様が増加している。夕方以降は地元の通勤通学ばかりになり例年並となるが、先月と比べれば幾分、消費マインドが戻ってきているのを感じる。また、毎週末には何らかのイベントが催され、それなりに活況ではあったが、裏を返せば、既存の施設ならびサービスに満足していないということでもあり、景気を実感できない地方においては、近場で安価に楽しめるイベントに人が集まるのは必然。集客に成功したからといって、地元事業者が経済的に潤うとは限らない。日常の中で、いかに集客し売上げに

つなげて行くための方策を考えていかねばならない。

<郡山市>

今月は、うすい百貨店でふたつの大きな物産展があり、やや上向きだった。しかし、全体の集客は上昇しているとは言える程ではなく、停滞気味なのは相変わらずである。もともと、昨年消費活性化のために導入された商品券も、利用は多かったが売上げ増には結びつかなかったのが当然のこと。もっと大きな景気回復がなければ厳しいのではないかと。

<いわき市>

9月の反動もあり、前半はおお客様の来店も増え、順調に推移している店舗が多いようだった。

下旬に気温がだいぶ下がって冬の天候になり、来街者がかかり少なくなったため、売上も下降。月としては前年並みの結果となったが、この気温では11月の来街が心配。冬物の用意で足を運んでくれるとありがたいのだが。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

安定した天候と紅葉が順調に進んだことから10月の観光の人出は例年並みの実績を残すことができた。

観光業界はDMOとインバウンドによる観光活性化に取り組んでおり、日本各地で広域的な新たな観光地づくりがすすめられている。DMOにおいては、福島県内では福島県観光物産交流協会、福島市観光コンベンション協会、土湯温泉観光まちづくり協議会等が候補法人に登録され外国人を受け入れるための組織づくりや観光素材づくり、海外への情報発信方法等を調査、分析、整備している。2020年の東京オリンピックまでには、地域の方でお客様を迎え入れることができるハード整備、ソフト整備、人材育成、資金力の確保に努めたい。

<理容業>

9月が例年に比べ大幅に売上が落ちたため心配していたが、今月は例年通りまで売上が回復。9月の売上減少は来店周期が伸びたのが原因のようだった。どの店も大半は固定客相手の営業状態のため、急に涼しくなれば周期が伸び、月一回のペースでなくなるため仕方ない。景気のいい頃は高単価のメニューも多く出たが、今はそれもない。髪を切らなくても利用して頂けるメニューを増やしたり、高齢や障害等で来店出来ない人たちへの出張理容等積極的に取り組むよう進めている。

<美容業>

行楽シーズンにあたり、消費者の客足の心配をしたが予想より良い結果になった。こまめに消費者のニーズ対策をした施設は売上げを押し上げる結果が出ているよう。更なる消費者心理の変化を捉える事が鍵。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月実績でほぼ同額の売上げで推移している。また、震災関連事業が10月からスタートとなった。4月、5月で業務発注の変動があり苦慮していたが7月から需要が高まり、3年間の業務契約ができ安定してくると思われる。産業廃棄物に関しては、依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。雇用については、組合員各社でも人手不足感がある。地元の雇用を目指してはいるが、集まらないのが現状。海外の研修生制度を利用している所もあるが業種として環境関連は難しく苦慮している。

建設業

<建設業>

(県北地区)

除染業務委託に関しては、環境省が直轄で大手ゼネコンに発注している浜通り地区の除染を除き、中通り地区で地元企業が受注している住宅除染は、ほぼ完了に近づいており、道路、森林、ため池除染を残すのみとなっている。

(県南地区)

目立った建築工事物件が少ない上、新たな発注予定物件も少なく、建築工事の売上げが減少している。土木工事は若干発注があるが件数は多くなく、地元の業者が落札出来ないケースも見られる。除染は完了に近づいているが、森林除染が若干発注された。

<管工事>

前月比で給水設備申請、排水設備申請とも増加した。

また、前年同月累計対比でも給水設備申請、排水設備申請とも増加している。

<専門工事>

全体的には特に大きな動きは無い様に感じられるが、復興関係の業務がひと段落ついたせいもあり、急激に冷え込んできている感じがする。天候不順による北海道産野菜の不作や国内外の政治不安の要素もあり、少なくとも景況感が下向きになったのは間違いないと明確に感じる。

運輸業

<トラック団地>

燃料が若干上がり気味となっているが、大幅な価格上昇はなく今のところ収益面は安定している。

<ハイヤータクシー>

思いのほか低調であった。